平成 20 年 2 月 6 日

各　位

会 社 名　　澁 谷 工 業 株 式 会 社
代表者名　　取締役社長　澁 谷 弘 利
（コード番号6340　東証、名証市場第１部）
問合せ先　　常務取締役　吉 道 義 明
（TEL　076－262－1201）

平成20年６月期(中間期)業績予想および(通期)業績予想の修正のお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、公表済みの平成20年6月期中間（平成19年7月1日～平成19年12月31日）および平成20年6月期（平成19年7月1日～平成20年6月30日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。
なお、中間の予想および個別の通期予想は平成19年8月23日の決算発表時、連結通期の予想は平成20年1月18日に「株式会社マキ製作所の事業の譲受けに関するお知らせ」を公表した時点の業績予想であります。

記

１．連結予想数値の修正

（１）平成20年6月期中間連結業績予想数値の修正（平成19年7月1日～平成19年12月31日）

（単位：百万円、%）

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益	１株当たり当中間純利益
前　回　発　表　予　想（A）	26,500	1,400	1,420	800	30.33円
今　回　修　正　予　想（B）	21,290	14	△　21	△　302	△11.41円
増　減　額（B－A）	△5,209	△1,385	△1,441	△1,102	－
増　減　率（%）	△ 19.7	△ 99.0	－	－	－
（ご参考）前期実績(平成19年6月期中間)	21,830	953	945	413	15.67円

（２）平成20年6月期連結通期業績予想数値の修正（平成19年7月1日～平成20年6月30日）

（単位：百万円、%）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前　回　発　表　予　想（A）	56,200	3,180	3,160	1,790	66.24円
今　回　修　正　予　想（B）	54,000	1,860	1,980	780	28.86円
増　減　額（B－A）	△2,200	△1,320	△1,180	△1,010	－
増　減　率（%）	△　3.9	△ 41.5	△ 37.3	△ 56.4	－
（ご参考）前期実績(平成19年6月期)	50,766	2,553	2,614	1,405	53.29円

２．個別業績予想数値の修正

（１）平成20年6月期中間業績予想数値の修正（平成19年7月1日～平成19年12月31日）

（単位：百万円、％）

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益	１株当たり当中間純利益
前　回　発　表　予　想（A）	21,500	900	1,000	600	22.75円
今　回　修　正　予　想（B）	17,664	130	194	△　43	△1.65円
増　　減　　額（B－A）	△3,835	△　769	△　805	△　643	－
増　　減　　率（％）	△ 17.8	△ 85.5	△ 80.5	－	－
（ご参考） 前期実績(平成19年6月期中間)	18,274	521	611	261	9.93円

（２）平成20年6月期通期業績予想数値の修正（平成19年7月1日～平成20年6月30日）

（単位：百万円、％）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前　回　発　表　予　想（A）	45,500	2,300	2,500	1,520	57.63円
今　回　修　正　予　想（B）	44,000	1,850	2,200	1,100	40.70円
増　　減　　額（B－A）	△ 1,500	△　450	△　300	△　420	－
増　　減　　率（％）	△　3.3	△ 19.6	△ 12.0	△ 27.6	－
（ご参考） 前期実績(平成19年6月期)	42,928	1,566	1,831	1,025	38.88円

３．修正の理由

（１）連結業績

①中間

連結の中間売上高は、当社および連結子会社の一部において、ユーザーの新工場建設が建築基準法の改正による影響で建築確認が遅れ、期初計画時点で第二四半期納入と見込んでいたパッケージングプラント事業の大型プラント数件が下期へずれ込んだことから21,290百万円と期初予想に比べ19.7%減少しました。

利益面では、コスト削減に努めたものの、売上高が大幅未達の結果、固定費負担も高まり採算が悪化したことから、営業利益は14百万円と期初予想に比べ99.0%減少し、また経常損失21百万円の計上を余儀なくされました。更に、投資有価証券評価損110百万円を含む総額184百万円の特別損失が発生したことから中間純損失は302百万円となりました。

②通期

連結の通期売上高は、客先の設備投資の延期や競争の激化により54,000百万円と平成20年1月18日公表時の予想に比べ3.9%の減少と予想しております。

利益面では、平成20年1月18日公表時の予想に比べ、売上高の未達による限界利益の減少と資材価格のアップなどにより、当社および連結子会社の業績の低下が見込まれることから、営業利益は1,860百万円、経常利益は1,980百万円、当期純利益は780百万円となり、それぞれ41.5%、37.3%、56.4%の減少を予想しております。

（２）個別業績

①中間

個別の中間売上高は、連結業績に記載のとおりパッケージングプラント事業の大型プラント数件が下期へずれ込んだことから、売上高は17,664百万円と期初予想に比べ17.8%減少しました。

利益面では、コスト削減に努めたものの、連結業績に記載したとおり売上高の大幅未達により固定費負担も高まり採算が低下し、営業利益は130百万円、経常利益は194百万円となり期初予想に比べそれぞれ 85.5%、80.5%の大幅減少となりました。また、投資有価証券評価損110百万円、子会社に対する債務保証損失引当金繰入22百万円を含む総額153百万円の特別損失が発生したことから、中間純損失は43百万円の計上を余儀なくされました。

②通期

個別の通期売上高は、客先の設備投資の延期などから44,000百万円と期初予想に比べ3.3%の減少と見込んでおります。

利益面では、連結業績に記載したとおり採算面で厳しくなり、営業利益は1,850百万円、経常利益は2,200百万円、当期純利益は1,100百万円となり、期初予想に比べそれぞれ19.6%、12.0%、27.6%の減少を予想しております。

以　上